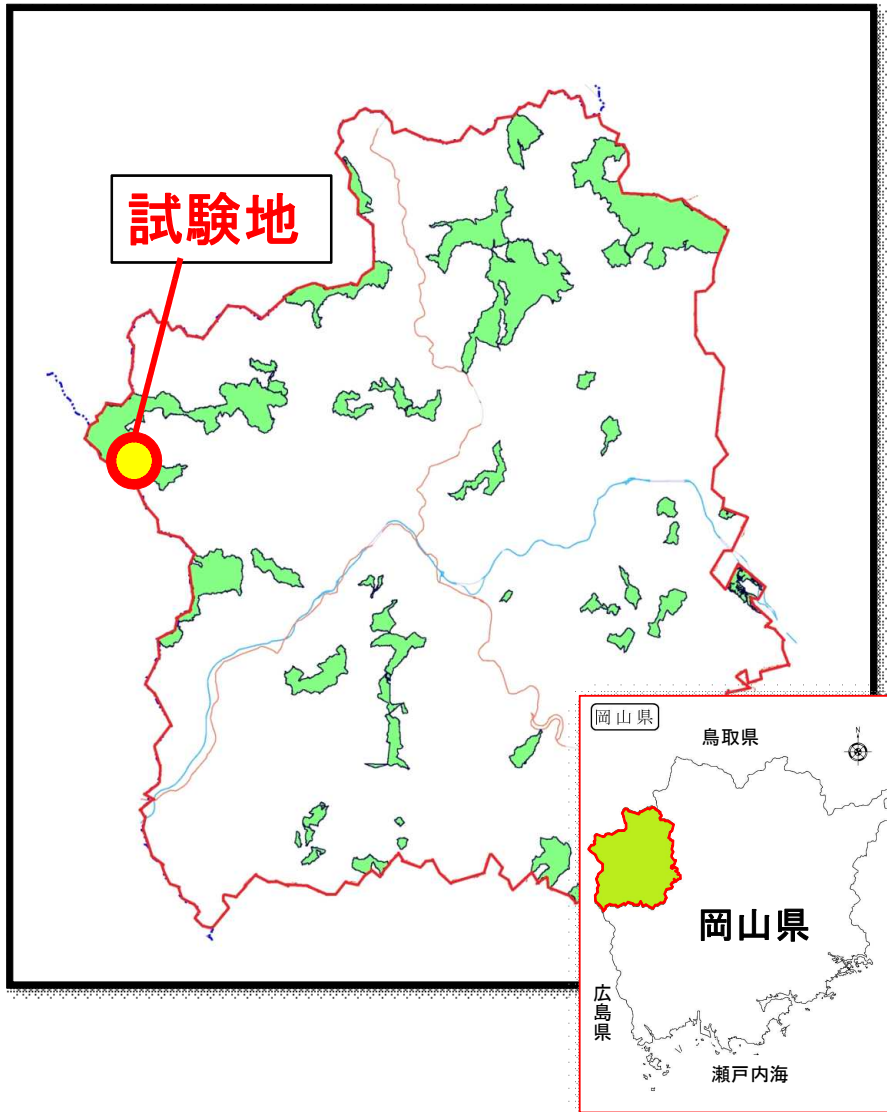
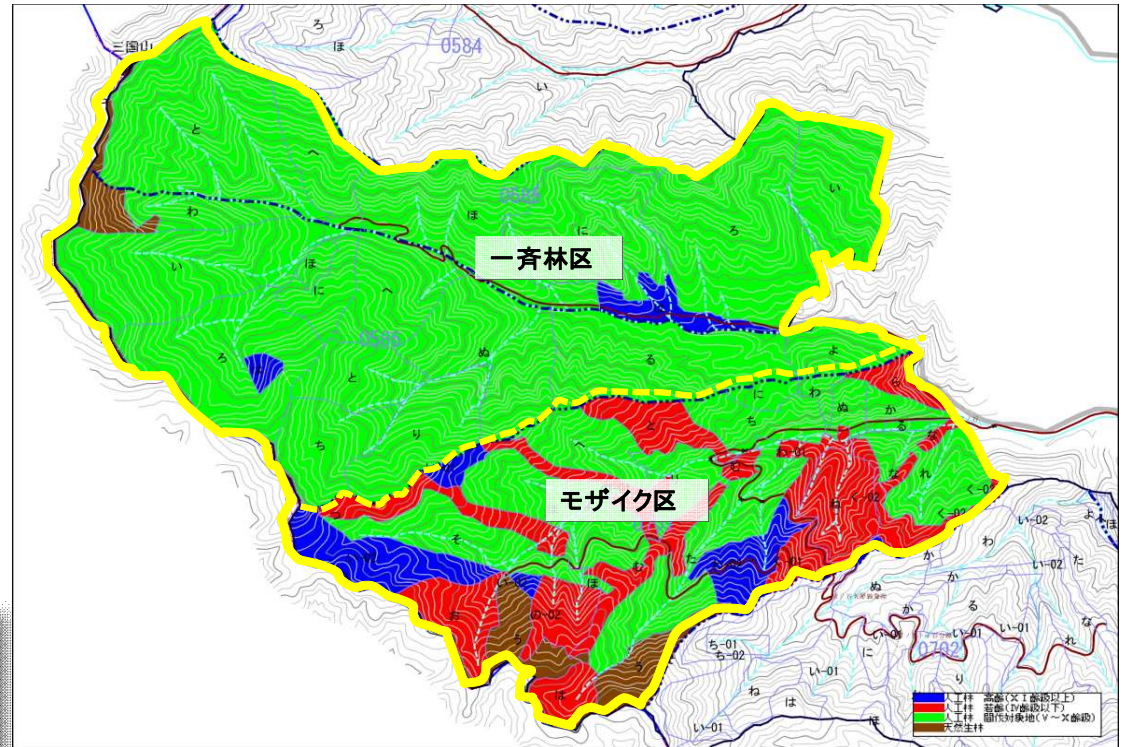


課 題	人工林における森林整備手法の違いによる生物多様性保全の検証について	
カテゴリー	公益的機能の高度発揮のための森林施業及び保全・利用技術の確立 (環境保全的な小面積皆伐・モザイク伐採や更新等の施業方法)	
キーワード	生物多様性、森林整備手法	
開発期間	平成22年度～平成25年度	
実施主体	森林技術・支援センター	
実施場所	岡山県新見市(三室国有林585、586、701林班内)	
協力機関		
背景・目的	(背景) 森林における生物多様性については、一定の面の広がりの中で自然条件、立地条件に適した様々な植生のタイプが存在し、生物相の維持に必要な様々な遷移段階の森林がバランスよく配置されていることが肝要とされている。	
	(目的) 林相が異なる小流域(林種や樹種がモザイク状に配置された流域と一斉人工林)において、土壌、動植物等の生息、生育調査を実施し、各小流域の現状把握と相違について検証を行う。 また、小流域に皆伐、間伐、除伐などの森林整備を実施し、施業後の動植物の生息・生育の変化についてモニタリングすることで、生物多様性に及ぼす影響について調査を実施する。	
成 果	(調査経過)	
	H22年度	①プロット設定 ②植生調査(夏期、秋期)
	H23年度	①鳥類調査(定点・ライン調査)
	H25年度	①植生プロットの状況確認
	(調査結果) モザイク区と一斉林区において出現する植生種数はそれぞれ約300種類。また、モザイク区において人工林と天然林でそれぞれ確認できた植生種は108種、123種と大きな差はなかった。 鳥類調査において確認された種数は、モザイク区138羽、一斉林区104羽と大きな差はなかった。	
(まとめ) 現状においては、モザイク区、一斉林区に出現する植生種数、鳥類種数共に大きな差は見られない。 森林施業による影響については、当試験区では近年施業を行っておらず現状の把握にとどまっており、施業前後の変化については調査・分析に至っていない。		

試験地位置図



調査区位置図



林班	面積 (ha)	備考
585~586	194.99	一斉林区
701	115.72	モザイク区
計	310.71	

・ 植生調査（夏期）702林班

主な種類

人工林内：108種
天然林内：123種
林道：86種

702林班	科名	名称
人工林	オンダ	シシガシラ
		リョウメンシダ
		イノデモドキ
天然林	バラ	ウラジロノキ
		ウワミズザクラ
		クマイチゴ
林道	キク	ヨモギ
		ビッチュウアザミ
		シュウブンソウ

・ 鳥類調査（23年6月）

	定点		ライン	
	渡り鳥	留鳥	渡り鳥	留鳥
一斉林区	13種 42羽	6種 7種	15種 62羽	4種 9種
モザイク区	13種 39羽	4種 9種	16種 99羽	7種 9種

一斉林区、モザイク区毎に調査を行い、定点調査は1地点当たり10分間の鳴き声を主体とした調査を6地点で実施。
また、定点間のライン調査も併せて実施。

主な種類

・ 植生調査（秋期）585林班

主な種類

人工林内：340種

科名	名称
キク	オオアレチノギク
	ビッチュウアザミ
	シュウブンソウ

	定点		ライン	
	渡り鳥	留鳥	渡り鳥	留鳥
一斉林区	オオルリ	シジュウカラ	オオルリ	ミソサザイ
	アカショウビン	イカル	カッコウ	イカル
モザイク区	オオルリ	ヒガラ	ヤブサメ	ミソサザイ
	ヤブサメ	アオバト	クロツグミ	アオゲラ

・ プロット調査

プロットの現況

プロット位置 (林小班)	樹種	本数	平均胸高径 cm	平均樹高 m	下層植生の状況		
					被度	出現種数	出現種
701か	ヒノキ	11	19.6	16.8	4.0%	13	カンスゲ、イヌガヤ
701る	スギ	15	23.1	17.6	23.0%	10	カンスゲ、カタバミ
701ぬ	ヒノキ	20	14.4	10.0	88.8%	20	ミヤコザサ、コアジサイ、サルトリイバラ
	コナラ	1	8.0	9.0			
701わ2	ヒノキ	11	15.7	7.8	35.0%	19	クロモジ、コアジサイ、カンスゲ
	スギ	1	10.0	6.0			
	広葉樹	12	4.1	5.3			
701む	ヒノキ	25	6.8	5.0	67.5%	32	ミズナラ、リョウブ、クロモジ
	スギ	1	8.0	6.0			
586に	ヒノキ	7	22.9	14.7	65.0%	20	クロモジ、コアジサイ
586ほ	スギ	6	31.0	15.8	67.5%	10	ミヤコザサ、クロモジ

※ 上層木は10×10m、下層植生は2×2mを4箇所